

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2019-004
2.研究課題名	乳児の睡眠と社会情緒言語発達
3.研究期間	令和2年2月（倫理審査委員会承認後）～ 令和5年 3月 31日
4.研究の概要	<p>意義・目的</p> <p>乳児は、典型的には生後数か月で視線・顔の表情といった社会的・感情的・言語的刺激を使って他者の意図を読み取ったり社会的ステレオタイプを形成していくことが知られている。継続的なストレスやトラウマが乳児の脳発達に影響を与え、身体的、認知的、感情的、言語的発達に支障をきたすことを考えれば、そうした社会情緒や言語に関わる発達障害の高リスク群を早期に発見し、適切な介入を行うことはきわめて重要である。しかし、現在乳児研究で適用されている高度な技能や侵襲を要する特殊な実験パラダイムでは、簡便な検査として一般に適用することは難しい。</p> <p>乳児の社会情緒言語発達の問題を予測しうる様々な指標の中で、本研究では、把握の容易な睡眠習慣に注目する。社会情緒や言語の発達における睡眠習慣の役割は、成人や児童期の子どもにおいて明らかにされている。睡眠の問題は、感情判断の低下をもたらし、子どもの不安や怒りを招きやすいという。とくに1日の70%を睡眠に費やし、急速な脳の発達が見込まれる乳児では、睡眠の訓練が乳児の社会情緒言語発達の遅延を補うことが示唆されている。したがって、睡眠と社会情緒的発達の関係を解明することは、その後の心身の発達を促すために不可欠である。</p> <p>本研究は、視線計測の手法を援用して簡便な行動検査を開発するための乳児の社会情緒言語発達の基礎実験を分類し、その妥当性を評価するために、乳児の睡眠覚醒状況、睡眠習慣や発達の縦断的变化を調べる。</p> <p>方法</p> <p>健常の乳児男女約30名とその母親を対象とし、乳児の生後6週間から24か月まで縦断的に計測・調査する。地域の団体等を通じて募集し、保護者に事前の十分な説明を行った上で自由意志での協力を求める。</p> <p>視線計測課題の有効性と乳児の結果との比較を行うために、成人の男女約30名（東北大学学生）を募集する。</p> <p>問い合わせ・苦情等の窓口</p> <p>東北大学大学院文学研究科言語学研究室（022-795-5983） 東北大学川内南地区「人を対象とする医学系研究」 倫理審査委員会事務局（022-795-6103）</p>